

別表1

段階確認一覧表

一般：一般監督
重点：重点監督

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の程度
指定仮設工		設置完了時	使用材料、幅、高さ、長さ、深さ等	1回／1工事
土工（掘削工）		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回／土(岩)質の変化
道路土工 (路床盛土工) 舗装工 (下層路盤工)		ブルーフローリング実施時	ブルーフローリング実施状況	1回／1工事
表層安定処理工	表層混合処理 路床安定処理	処理完了時	使用材料、基準高さ、幅、延長、施工厚さ	一般：1回／1工事 重点：1回／2,000m ²
	置換	掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換え厚さ	一般：1回／1工事 重点：1回／1,000m ²
	サンドマット	処理完了時	使用材料、幅、延長、施工厚さ	一般：1回／1工事 重点：1回／1,000m ²
バーチカルドレーン工	サンドドレーン 袋詰式サンドドレーン ペーパードレーン	施工時	使用材料、打込み長さ	一般：1回／200本 重点：1回／100本
		施工完了時	施工位置、杭径	一般：1回／200本 重点：1回／100本
締固め改良工	サンドコンパクションパイプ	施工時	使用材料、打込み長さ	一般：1回／100本 重点：1回／50本
		施工完了時	基準高さ、施工位置、杭径	一般：1回／100本 重点：1回／50本
固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 セメントミルク攪拌 生石灰パイプ	施工時	使用材料、深度	一般：1回／100本 重点：1回／50本
		施工完了時	基準高さ、位置、間隔、杭径	一般：1回／100本 重点：1回／50本
	薬液注入	施工時	使用材料、深度、注入量	一般：1回／40本 重点：1回／20本
矢板工 (任意仮設を除く)	鋼矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板＋ 一般：1回／150枚 重点：1回／100枚
		打込完了時	基準高さ、変位	
	鋼管矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板＋ 一般：1回／50枚 重点：1回／25枚
		打込完了時	基準高さ、変位	
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	試験杭＋ 一般：1回／50本 重点：1回／25本
		打込完了時(打込杭)	基準高さ、偏心量	
		掘削完了時(中堀杭)	掘削長さ、杭の先端土質	
		施工完了時(中堀杭)	基準高さ、偏心量	
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	
場所打杭工	リバース杭 オールケーシング杭 アスドリル杭 大口径杭	掘削完了時	掘削長さ、支持地盤	試験杭＋ 一般：1回／10本 重点：1回／5本
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：20%程度／1構造物 重点：50%程度／1構造物
		施工完了時	基準高さ、偏心量、杭径	試験杭＋ 一般：1回／10本 重点：1回／5本
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：1回／10本 重点：1回／5本

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の程度	
深礎工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回／土(岩)質の変化毎	
		掘削完了時	長さ、支持地盤	一般：1回／3本 重点：全数	
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との対比	1回／1本	
		施工完了時	基準高さ、偏心量、径	一般：1回／3本 重点：全数	
		グラウト注入時	使用材料、使用量	一般：1回／3本 重点：全数	
オープソケーション基礎工 ニューマチックケーソン基礎工		鉄沓据付け完了時	使用材料、施工位置	1回／1構造物	
		本体設置前(オープソケーション)	支持層		
		掘削完了時(ニューマチックケーソン)			
		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置		
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との対比、ヌーズの個数	1回／1ロット	
鋼管矢板基礎工		打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否、支持力	試験杭＋ 一般：1回／10本 重点：1回／5本	
		打込完了時	基準高さ、偏心量		
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：1回／10本 重点：1回／5本	
置換工 (重要構造物)		掘削完了時	使用材料、幅、延長 置換厚さ、支持地盤	1回／1構造物	
築堤・護岸工		法線設置完了時	法線設置状況	1回／1法線	
砂防ダム		法線設置完了時	法線設置状況	1回／1法線	
護岸工	法覆工(覆土施工がある場合)	覆土前	設計図書との対比(不可視部分の出来形)	1回／1工事	
	基礎工、根固工	設置完了時	設計図書との対比(不可視部分の出来形)	1回／1工事	
重要構造物 函渠工(樋門・樋管含む) 躯体工(橋台) RC躯体工(橋脚) 橋脚ワーリング工 RC擁壁工 砂防ダム 堰本体工 排水機場本体工 水門工 共同溝本体工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回／土(岩)質の変化毎	
		床堀・掘削完了時	支持地盤(直接基礎)	1回／1構造物	
		鉄筋組立て完了時	使用材料 設計図書との対比 ヌーズの個数	一般：20%程度／1構造物 重点：50%程度／1構造物	
		埋戻し前	設計図書との対比 (不可視部分の出来形)	1回／1構造物	
躯体工 RC躯体工		沓座の位置決定時	沓座の位置	1回／1構造物	
床版工		鉄筋組立て完了時	使用材料 設計図書との対比 ヌーズの個数	一般：20%程度／1構造物 重点：50%程度／1構造物	
鋼橋 鋼製橋脚製作工		仮組立て完了時(仮組立てが省略となる場合を除く)	キャンバー、寸法等	1回／1構造物	

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の程度	参考日当施工量
ボルテーションT(Ⅰ)桁製作工 プレキャストT型枠製作工 プレキャストワック枠組立工 PCホーラフ製作工 PC版枠製作工 PC箱枠製作工 PC片持箱枠製作工 PC押出し箱枠製作工 床版・横組工		プレストレス導入完了時 横縫め作業完了時	設計図書との対比	一般:5%程度/総ケーブル数 重点:10%程度/総ケーブル数	
		プレストレス導入完了時 縦縫め作業完了時	設計図書との対比	一般:10%程度/総ケーブル数 重点:20%程度/総ケーブル数	
		PC鋼線・鉄筋組立て完了時 (工場製作を除く)	使用材料 設計図書との対比	一般:20%程度/1構造物 重点:50%程度/1構造物	
地覆工 橋梁用高欄工		鉄筋組立て完了時	設計図書との対比 スペーザの個数	一般:20%程度/1構造物 重点:50%程度/1構造物	
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎	
トンネル支保工		支保工完了時 (支保工変化毎)	吹き付けコンクリート厚 ロックボルト打込み本数及び長さ	1回/支保工変化毎	
トンネル覆工		コンクリート打設前	巻立空間	一般:1回/構造の変化毎 重点:3打設毎又は1回/構造の変化毎の頻度の多い方 ※重点監督:地山等級がD,Eのもの 一般監督:重点監督以外	
		コンクリート打設後	出来形寸法	1回/200m以上臨場により確認	
トンネルインバート工		鉄筋組立て完了時	設計図書との対比 スペーザの個数	1回/構造の変化毎	
ダム工	各工事ごと別途定める		各工事ごと別途定める		
鋼板巻立て工	フーチング定着アンカー穿孔工	フーチング定着アンカー穿孔完了時	施工状況の適否、設計図書との対比、深さ	一般:全数 重点:全数	
	鋼板取付工、固定アンカー工	鋼板建込み固定アンカー完了時	建込み状況、設計図書との対比、使用材料	1回/1橋脚	
	現場溶接工	溶接前 溶接完了時	施工状況の適否、設計図書との対比、溶接部の適否	一般:1回/1工事 重点:1回/500m ²	
	現場塗装工	塗装前 塗装完了時	施工状況の適否、塗膜厚、使用材料及び使用量	一般:1回/1工事 重点:1回/500m ²	
舗装工	路盤、基層、表層	各層毎の完了時	基準高さ、幅、厚さ 支持力	一般:1回/1工事 重点:1回/3000m ²	
塗装工	現場塗装	ケレン完了後、各層各塗り後	施工状況の適否、塗膜厚、使用材料及び使用量	一般:1回/1工事 重点:1回/500m ²	
旧施設撤去		完了時	撤去状況の適否	一般:1回/1工事 重点:1回/1施設	
路面切削工		完了時	施工状況の適否、幅、厚さ	一般:1回/1工事 重点:1回/3000m ²	
コンクリート吹付け工 厚層基材吹付工		法面清掃完了時	施工状況の適否	1回/1面	
		ラス張完了時	ラスの位置、アンカーフレッシュ検査 ピンの径、長さ、本数	1回/1面	
開削工(下水道)		完了時	施工状況の適否	一般:1バッソ(人孔間)ごと 重点:一般に同じ	12m/日
推進工(下水道)		完了時	施工状況の適否	一般:1バッソ(人孔間)ごと 重点:一般に同じ	
シールド工(下水道)		セグメント組立て完了時	施工状況の適否	一般:1バッソ(人孔間)ごと 重点:一般に同じ	
		2次覆工完了時	施工状況の適否	一般:100mごと 重点:50mごと	9m/日
立坑工(下水道)		完了時	支持地盤、寸法、施工状況の適否	一般:1回/1箇所 重点:一般に同じ	
人孔築造工 (下水道)		鉄筋組立て完了時	設計図書との対比、使用材料、スペーザの個数	一般:20%程度/1構造物 重点:50%程度/1構造物	
		築造完了時	施工状況の適否	一般:1回/1構造物 重点:一般に同じ	

注) 表中の「確認の程度」は確認頻度の目標であり、実施にあたっては工事内容及び施工状況等を勘案の上設定することとし、重点監督は1回/週以上の頻度で実施すること。

なお、ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は、施工単位(目地)毎とする。

・一般監督: 重点監督以外の工事(工事標準仕様書第1編1-1-22第7項の規定によることができる)

・重点監督: 低入札工事

: 主たる工種に「NETIS」等の新技術・工法等を採用した工事。

別表2

施工状況把握一覧表

一般：一般監督
重点：重点監督

種別	細別	施工時期	把握項目	把握の程度
オープングーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工 深礎工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間 打設順序、天候、気温	一般：1回／1構造物 重点：1回／1ロット
場所打杭工	リバース杭 オールケーシング杭 アスドリル杭 大口径杭	コンクリート打設時	品質規格、運搬時間 打設順序、天候、気温	一般：1回／1構造物 重点：1回／1ロット
重要構造物 函渠工（樋門・樋管含む） 船体工（橋台） RC船体工（橋脚） 橋脚ワーハンギ工 RC擁壁工 砂防ダム 堰本体工 排水機場本体工 水門工 共同溝本体工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間 打設順序、天候、気温	一般：1回／1構造物 重点：1回／1ロット
床版工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間 打設順序、天候、気温	一般：1回／1構造物 重点：1回／1ロット
ボルトテンションT（I）桁製作工 プレピーム桁製作工 ブレキヤストワーロック桁組立工 PCホロースラブ製作工 PC板桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押出し箱桁製作工 床版・横組工		コンクリート打設時 (工場製作を除く)	品質規格、運搬時間 打設順序、天候、気温	一般：1回／1構造物 重点：1回／1ロット
トンネル工		施工時（支保工変化毎）	施工状況の適否	1回／支保工変化毎
土工（盛土工）		敷き均し・転圧時	使用材料 敷均し・締固め状況	一般：1回／1工事 重点：2～3回／1工事
舗装工	路盤、表層 基層	舗設時	使用材料 敷均し・締固め状況 天候、気温、舗設温度	一般：1回／1工事 重点：1回／3000m ²
コンクリート吹付け工		吹付け時	施工状況の適否 品質規格、天候、気温	1回／1面
塗装工	現場塗装	清掃・鏽落し施工時	清掃・鏽落し状況	1回／1工事
		塗装施工時	使用材料、天候、気温	1回／1工事
樹木・芝生管理工 植生工	施肥、薬剤散布	施工時	使用材料、天候、気温	1回／1工事
ダム工	各工事ごと別途定める		各工事ごと別途定める	
開削工（下水道）		施工時	施工状況の適否	一般：1回／1箇所 重点：1回／50m又は1km
推進工（下水道）		施工時	施工状況、推進力	一般：1回／100mごと 又は1km×2回 重点：1回／50mごと 又は1km×3回
		裏込注入時	施工状況、薬剤使用量	一般：1回／1箇所 重点：2回／1箇所
シールド工（下水道）	1次覆工 2次覆工	裏込注入時	施工状況、薬剤使用量	一般：100リンク 重点：50リンク
		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間 打設順序、天候、気温	一般：100mごと 重点：50mごと
立坑工（下水道）		施工時	施工状況の適否	一般：1回／1箇所 重点：2回／1箇所
人孔築造工（下水道）		施工時	施工状況の適否	一般：1回／1構造物 重点：1回／1ロット

注) 表中の「把握の程度」は把握頻度の目標であり、実施にあたっては工事内容及び施工状況等を勘案の上設定することとし、重点監督は1回／週以上の頻度で実施すること。

なお、ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は、施工単位（目地）毎とする。

・一般監督：重点監督以外の工事

・重点監督：低入札工事

：主たる工種に「NETIS」等の新技術・工法等を採用した工事。